

Inspector 2000

Operator's Guide

Manual
Release Version : C.00
August '2004

MUNAZO Co.,LTD.

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中6-9

KOBE FM

Phone (078) 857-5447

Fax (078) 857-5443

Web Site: <http://munazo.jp>

E-mail: munazo@munazo.jp

製品保証についてのお願い

本製品につきまして、以下内容の製品保証を行っています。

保証期間と保証範囲

[保証期間] 納入品の保証期間は、同梱された保証書内容の期間と致します。

[保証範囲] 保証期間中に故障を生じた場合は、その機器交換、又は修理を以下の原因に該当する場合を除き、納入側の責において行います。

故障原因が設置環境下における機器特性の変化による。
故障原因が使用者側の不適当な取扱いならびに使用による。
故障原因が納入品以外の事由による。
故障原因がその他、天災・災害などで納入者側の責にあらざる場合。

但し、ここでいう保証は納入品単体の保証を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害の一切はご容赦いただきます。

MUNAZO Co.,LTD.

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中6-9

KOBE FM

Phone (078) 857-5447

Fax (078) 857-5443

Web Site : <http://munazo.jp>

E-mail : munazo@munazo.jp

本書の内容に関しては将来予告無しに変更することがあります。
本書内において万一ご不審な点、誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたらご連絡下さい。
運用した結果の影響について 項にかかわらず一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。

バーコード検査機 / 検証機を正しくお使いいただくために

バーコード検査 / 検証機等は、光学 / 精密電子機器ですのでお取り扱いには十分にご注意が必要です。下記内容のご注意点の遵守をお願いいたします。

ご注意点

- 熱の発生源の近く、直射日光の当る場所、電磁界、腐食ガスの環境、埃の多い所、使用周囲温度(0～40) / 使用周囲湿度(30～80%)を越える場所に設置しないでください。
- 本体を持ち運ぶときは、衝撃を与えないようにして下さい。
- 振動や衝撃の加わる場所での設置はしないで下さい。また、本体や電源コード等の上に物を載せないで下さい。故障による火災・感電の原因となります。
- 排熱のための通風口をふさがないで下さい。故障による火災の原因となります。
- 水場付近では使用しないで下さい。
- 絶対に分解したり修理・改造しないでください。火災や感電の原因となります。また、分解された場合には保証期間中であっても無償保証の対象外となります。
- 電源及び通信プラグを抜くときはコードを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
- 付属の電源及び通信コード以外は使用しないで下さい。火災、感電、故障の原因となります。
- 本体から何かこげるような匂いがしたり、異様な音がしたときは直に電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。
- **機器に影響を与える恐れのある電磁波等が発生し易い装置のそばには設置はしないで下さい。**

設置回避場所

- AC200V 以上のスイッチングを行う配電盤の周辺3m以内。
 - 配線 AC200V ケーブル(完全シールドされていない)設置周辺3m以内。
 - 配線 AC200V ケーブル(完全シールドされた)の切替部、例えばスイッチ BOX 等のケーブル軸の一部が露出した場所の周辺3m以内。
 - 印刷機、エアコンその他 AC200V 以上の電源で動作する制御装置周辺3m以内。
- 雷が近いときはすみやかに電源を OFF にし電源コードをコンセントから抜いて下さい。
 - 長時間使用しないときは、電池を OFF にし電源プラグはコンセントから抜いて下さい。漏電、火災の原因となります。
 - プリンター感熱記録紙の保管は、乾燥した冷暗所に保存してください。

RJS MUNAZO バーコード検査機 / 検証機等

インスペクターシリーズ

インスペクター専用プリンタ

レーザコーダスキャン

レーザコーダスキャン専用プリンタ

オートスキャン2シリーズ

オートスキャン2専用ライトボックス、専用プリンタ

SV シリーズ

MR320PVF

PT600LVF

安全上のご注意(必ずお守りください)

この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと大切に保管し、必要なときにお読みください。

	警告	この表示は、取扱を誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示は、取扱を誤った場合、「傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される」内容です。

	記号は、 注意 (危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。 (左の表示例は「警告または注意事項」があることを表しています)
	記号は、 禁止 の行為であることを告げるものです。 (左の表示例は「分解禁止」を表しています)
	記号は、行為を 強制 したり、 指示 する内容を告げるものです。 (左の表示例は「電源プラグをコンセントから抜く」ことを表しています)

 警告	
	強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。 故障、火災の原因となります。
	湿気の多い場所では絶対に使用しないでください。 感電の原因となります。
	引火、爆発の恐れがある場所では使用しないでください。 プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵が発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
	濡らさないでください。 液体が中に入ると発熱・感電・故障などの原因となります。
	雷が鳴りだしたら、触れないでください。 落雷・感電の原因となります。
	使用中、保管時に、異臭・発熱・変色・変形など今までと異なるときは、使用しないでください。 発熱・破裂・発火させる原因となります
	分解・改造をしないでください。また、直接ハンダ付けをしないでください。 感電・火災・故障の原因となります。
	電源は国内の家庭用 AC100V コンセントを使用してください。 誤った電源で使用すると火災や故障の原因となります。
	充電端子や外部接続端子に導電性異物(金属片・鉛筆の芯など)が触れないようにしてください。また内部に入れないようにしてください。 ショートによる火災や故障の原因となります。
	万一、水などの液体が入った場合は、直ちにコンセントから電源プラグを抜いてください。 感電・発煙・火災の原因となります。
	電源プラグに付いたほこりは拭きとってください。 火災の原因となります。
	長時間使用しない時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。 感電・火災・故障の原因となります。
	濡れた手で電源プラグ、コンセントに触れないでください。 感電の原因となります。
	火の中に投下しないでください。 漏液・発熱・破裂・発火させる原因となります。

 警告	
	ACアダプタは正しくお使いください。 発熱、発火などによる火災、故障、感電、傷害の原因となります。
	充電中は、充電機器を安定した場所に置いてください。また充電機器を布や毛布でおおったり、包んだりしないでください。 本体が外れたり、熱がこもり、火災・故障の原因となります。
	コンセントにつながれた状態で充電端子をショートさせないでください。また充電端子に手や指など、身体の一部を触れさせないでください。 火災・故障・感電・傷害の原因となります。
	電池パック内部の液が目の中に入った場合は、こすらず、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診断を受けてください。 失明の原因となります。
	電池パック内の液が皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに使用をやめてきれいな水で洗い流してください。 皮膚に傷害をおこす原因となります。
	電源コードが傷んだら使用しないで下さい。 感電・発熱・火災の原因となります。
	漏液したり異臭がするときは、直ちに火気から遠ざけてください。 漏液した液体に引火し、発火・破裂の原因となります。
 注意	
	電源コードを傷つけないでください。 火災や感電の原因となります。 <ul style="list-style-type: none"> 電源コードを加工したり、傷つけたりしないでください 上に重いものを乗せたり、引っ張ったりしないでください 必ずアダプタ本体を持ってコンセントから抜いてください
	お手入れの際は、コンセントから電源プラグを抜いて行ってください。 感電の原因となります。
	湿気やほこりの多い場所や高温となる場所には、保管しないでください。 故障の原因となります。
	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。 落下して、故障やけがの原因となります。
	直射日光の強い場所や炎天下の車内など高温の場所で使用、放置しないでください。 変形・故障の元となります。またやけどの原因となることもあります。
	濡れた電池パックを充電しないでください。 発熱・発火・破裂の原因となります。

Indx

1.	概要	1
1.1	はじめに	1
1.2	バックングリスト	1
1.3	各部名称	2
2.	インスペクタ2000を設定する	3
2.1	キャリブレーション	3
2.2	セットアップ	5
2.3	記憶モードの設定	10
3.	バーコードを検査する	13
3.1	バーコードのスキヤニング	13
3.2	合格 / 不合格表示	15
3.3	解析データ表示	18
3.4	警告メッセージ	20
3.5	バー幅偏差グラフ	21
3.6	モードチェック表示	23
3.7	バー幅偏差表示 LED	25
Appendix A	プリントアウト	A.1
Appendix B	バッテリーと電源オフ	B.1
Appendix C	コード128	C.1
Appendix D	コード93	D.1
Appendix E	UPC / EAN 倍率とバー幅偏差	E.1
Appendix F	クワイエットゾーンの検査	F.1
Appendix G	検査項目	G.1
Appendix H	インスペクター2000 検査データ内容説明	H.1

1. 概要

1.1 はじめに

この度は、インスペクタ 2000をお買い上げいただき有難うございます。
インスペクタ 2000はペンスキャナを装備した持ち運びに便利なポータブルバーコード検査機です。
目的のバーコードを一度スキャンするだけで、瞬時にバーコード検査を実施し、その結果が合格か不合格かをLCDディスプレイに表示します。UPC/EAN/JAN、CODE39、ITF、CODE128等を含む16種類のシンボルの検査が可能な他、マルチスキャンによる総合結果、3種類の信号音、50件の検査データ記憶機能等、ポータブルバーコード検査機としての十分な機能を装備しています。

下記にインスペクタ 2000の主な特徴を列挙します。

- トラディショナルANSI規格に適合した検査:
- レシオ、エンコーディング、MODチェック、バー幅差、クワイエットゾーン
- バー幅差をグラフと5つのLEDで表示
- シンボル自動識別
- PCS値の測定
- 双方向スキャンに対応
- 反射率/PCS値/レシオの表示
- 測定データの保存・表示・印刷(プリンタはオプション)

1.2 パッキングリスト

インスペクタ 2000のパッケージには以下の製品が梱包されています。
注意して箱からそれぞれの機器を取り出し、下記・の機器が揃っているか確認して下さい。

	インスペクタ2000本体
	ペンスキャナ(ケーブル付)
	単三アルカリ電池 4本
	バーコードシンボル テストシート(校正用)
	取扱説明書
オプション	
	バッテリー充電器(AC電源兼用)
	専用布製ホルダー

日付 / /

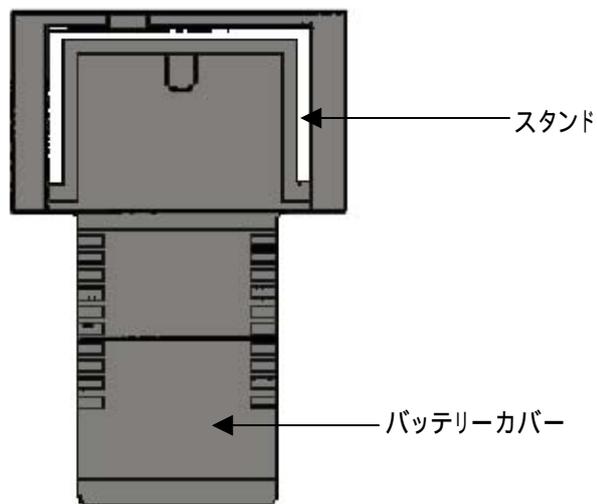
担当

不足物や破損しているものがありましたらお近くの販売店までご連絡下さい。

1.3 各部名称 インспекター2000の外観図



背面



2. インспекタ 2000を設定する

2.1 キャリブレーション

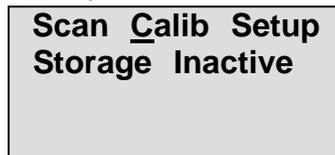
インспекタ 2000を使って、バーコードの検査を開始する前に、キャリブレーションと呼ばれる操作を行わなければいけません。キャリブレーションとはバーコードの検査に際し、正確な反射率を得るために、本体にあるダーク/ライトキャリブレーションプラークを使って、適正な反射率を覚え込ませる操作です。下記に操作手順を示します。

1. インспекタ 2000の ON ボタンを押し、電源を立ち上げます。
ディスプレイに次のメッセージが表示されます。



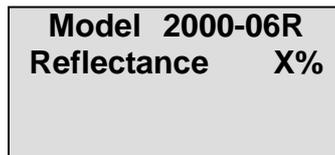
Model I2000-06R
Ready
Inspector C.00

2. SELECT ボタンと ENTER ボタンを同時に押し、メインメニュー画面を表示させます。



Scan Calib Setup
Storage Inactive

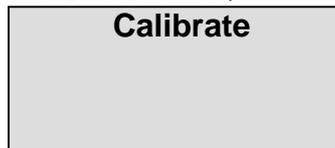
3. SELECT ボタンを押し、Calib の C の位置にカーソルを移動させ、ENTER ボタンを押します。表示は次の様になり、反射率測定モードとなります。



Model 2000-06R
Reflectance X%

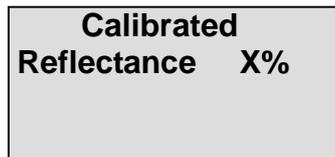
この状態で、ペンスキャナを測定対象物上に置くことで、任意のポイントの反射率を測定することができます。

4. 再度 ENTER ボタンを押します。表示が次の様になり、キャリブレーションモードとなります。



Calibrate

5. この状態でペンスキャナをインスペクタ 2000本体表面下部に貼付してあるキャリブレーションプラークの黒部分にのせます。この時、スキャニングシューを鉛筆を持つような感じで持ち、ラベルに完全に密着させたまま、白部分にスライドさせ、再度黒部分にスライドさせます。この操作を続けて6回繰り返すと、高い信号音がします。この信号音が鳴ればキャリブレーション完了です。表示が次の様になります。



この状態で、キャリブレーションプラークの黒の部分と白の部分の反射率を測定し、インスペクタ2000の本体裏面に貼付されている基準反射率と比較して下さい。誤差が黒部分の反射率で $\pm 2\%$ 、白の部分で $\pm 5\%$ 以内であればキャリブレーションは正しく行われたことになります。

基準反射率ラベルの見方	
HIGH 「白部分の基準」	LOW 「黒部分の基準」
(%REFL)	(%REFL)
7.6	0.2



- ✓ 「Calibrated」という表示がでない場合は、黒 白の往復が十分でなかったためと思われます。メインメニューに戻り、再度キャリブレーション操作を行って下さい。
- ✓ キャリブレーションプラークが汚れている場合は、正しくキャリブレーションを行うことは出来ません。新しいキャリブレーションプラークを入手するようにして下さい。

2.2 セットアップ

インスペクタ2000を使って、正しくバーコードの検査を行うために、目的のバーコードにあわせてパラメータを設定する必要があります。
下記に操作手順を示します。

1. インスペクタ2000の ON ボタンを押し、電源を立ち上げます。
ディスプレイに次のメッセージが表示されます。

Model I2000-06R
Ready
Inspector C.00

2. SELECT ボタンと ENTER ボタンを同時に押し、メインメニュー画面を表示させます。

Scan Calib Setup
Storage Inactive

3. SELECT ボタンを押して、SETUP の S の位置にカーソルを移動させ、ENTER ボタンを押します。表示は次の様になり、UPC / EAN コードの設定モードとなります。

JAN

UPC/EAN tol.
X% - y% Mag.

tol.
トレアランス (規格寸法に対する許容値)

バーコードの倍率

x、y には80%～200%の規格倍率範囲が4分割で表示されます。

この状態で、SELECT ボタンを押すと、X 及び Y の位置に表示されるパーセンテージが変わります。インスペクタ 2000 では下記の4種類の倍率範囲設定が可能です。目的のコードに合った倍率範囲が表示された時点で ENTER ボタンを押してください。

倍率範囲		
X%	~	Y%
80%	~	89%
90%	~	115%
116%	~	150%
151%	~	200%

4. ENTER ボタンを押すと、表示は次のようになります。

**UPC/EAN Rnd. Wt.
Off**

UPC-E バージョン(2チェックデジット)または、EAN で2チェックデジットをオプションで使用したバーコードの検査でチェックデジットを検査する場合にはSELECT ボタンで ON を選択、それ以外の場合は Off を選択します。

5. ENTER ボタンを押すと、コード39の設定モードとなります。

Code 39

**Decode 3 of 9 as
ANSI 3 of 9**

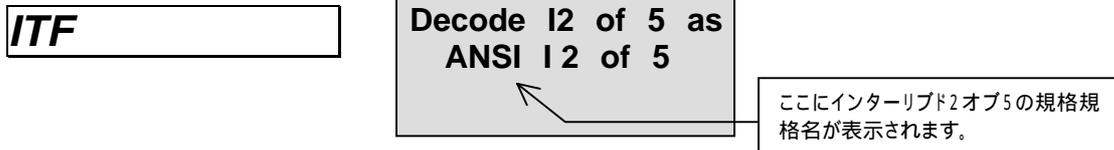
ここにコード39の規格名が表示されます。

この状態で SELECT ボタンを押し、目的のバーコードがコード39の何れの規格に該当するのを選択し、ENTER ボタンで決定します。

次に選択可能な規格リストを示します。

コード39規格リスト	
画面表示	規格名
ANSI 3 of 9	Code39 ANSI
3 of 9 w/43	Code39、Mod43 チェックデジット付
AIAG B-1	Code39 AIAG B-1
AIAG B-3/4/5	Code39 AIAG B-3/4/5
LOGMARS	Code39 LOGMARS
HIBC	Code39 HIBC

6. ENTER ボタンを押すと、インターリブ2 オブ5 の設定モードとなります。

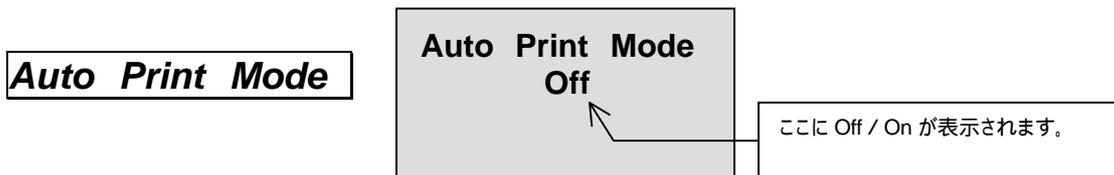


この状態で SELECT ボタンを押し、目的のバーコードがインターリブ2 オブ5 の何れの規格に該当するのを選択し、ENTER ボタンで決定します。

下記に選択可能な規格リストを示します。

インターリブ2 オブ5 (ITF) 規格リスト	
画面表示	規格名
ANSI 2 of 5	インターリブ2 オブ5 ANSI
Case Code	ケースコード

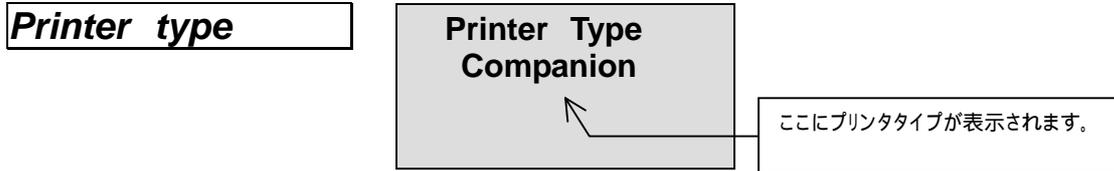
7. ENTER ボタンを押すと、オートプリントモードの設定モードとなります。



この状態で SELECT ボタンを押し、オートプリントモードをオンに設定するか、オフに設定するかを選択し、ENTER ボタンで決定します。

オートプリントモード	
画面表示	機能
On	バーコードをスキャンすると、検査結果を自動的にプリンタ出力します。
Off	自動プリントを行いません。

8. ENTER ボタンを押すと、プリンタタイプの設定モードとなります。



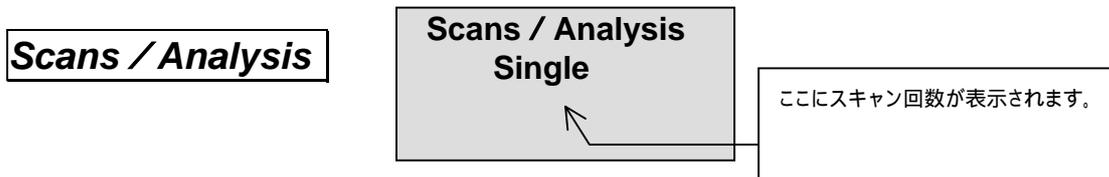
この状態で SELECT ボタンを押し、プリンタタイプを選択し、ENTER ボタンで決定します。

下記に選択可能なプリンタのリストを示します。

プリンタリスト
Companion
LP 2042
TP34 / 35
TP36
Standard-TP32

参考
TP40 Ammonite プリンタ
DP34 プリンタ
を使用する場合は、StandardTP32
を選択してください。

9. ENTER ボタンを押すと、スキャン回数の設定モードとなります。



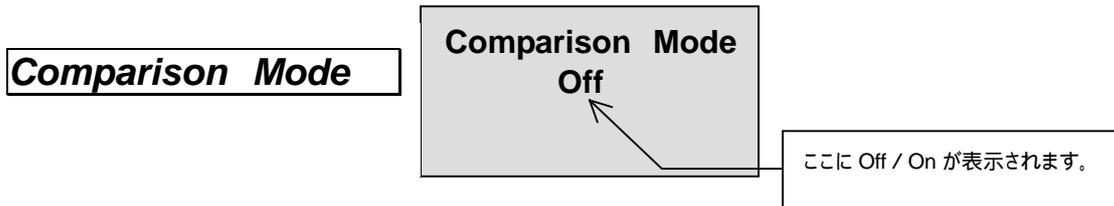
この状態で SELECT ボタンを押し、スキャン回数を選択し、ENTER ボタンで決定します。スキャン回数を複数回 (2 ~ 10) に設定することで、より適正な検査結果を得ることができます。

ここで設定したスキャン回数分、目的のバーコードをスキャンすると、インスペクタ2000はそのバーコードに対応する総合検査結果を表示します。

下記に設定可能なスキャン回数を示します。

スキャンの回数リスト	
画面表示	スキャン回数
Single	1回
2	2回
3	3回
4	4回
5	5回
6	6回
7	7回
8	8回
9	9回
10	10回

10. ENTER ボタンを押すと、コンパリソモードの設定モードとなります。



この状態で SELECT ボタンを押し、コンパリソモードをオンに設定するか、オフに設定するかを選択し、ENTER ボタンで決定します。

コンパリソモード	
画面表示	機能
On	最初にスキャンしたバーコードデータが登録され、そのバーコードだけを検査するモードとなり、他のバーコードの検査は行えなくなります。
Off	検査するバーコードデータの特定は行いません。

11. ENTER ボタンを押すと、セットアップを終了してメインメニューに戻ります。

2.3 記憶モードの設定

インスペクタ2000は工場出荷時、一度に1件分の検査データだけを記憶する設定となっていますが、設定を変更することにより、複数回の検査データを記憶させておくことが可能になります。下記に設定手順を示します。

1. インスペクタ2000のONボタンを押し、電源を立ち上げます。
ディスプレイに次のメッセージが表示されます。

Model I2000-06R
Ready
Inspector C.00

2. SELECTボタンとENTERボタンを同時に押し、メインメニュー画面を表示させます。

Scan Calib Setup
Storage Inactive

3. SELECTボタンを押して、StorageのSの位置にカーソルを移動させ、ENTERボタンを押します。表示は次の様になり、記憶モードがオンになります。

Scan Calib Setup
Storage 00%

記憶しているデータのパーセンテージが表示されています。
この値が99%になると、記憶領域に空きがないことを意味します。

再度、StorageのSの位置にカーソルを移動させ、ENTERボタンを押すと、記憶モードがオフになります。

パーセンテージ表示が99%となると、記憶領域が満杯ということです。
この状態でスキャンを行うと、次の警告メッセージが表示されます。

Scan not Stored.
Buffer full.

この様な場合は、記憶データのプリントアウト等必要な操作を行った後、SELECT ボタンでカーソルを%の下に移動させて、ENTER ボタンを押すことで、記憶データを全てクリアすることができます。記憶データが消去されると、表示は00%に戻ります。

Scan Calib Setup <u>S</u>torage 00%
--



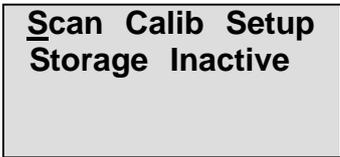
- ✓ 記憶領域のクリアを行うと、記憶されていた全ての検査データは消えてしまい、二度と復活させることができません。必ず、検査データのプリントアウトやコンピュータへのアップロード操作を行った上で、記憶領域をクリアする様にして下さい。
- ✓ インспекタ2000の記憶領域には検査データが約75件分記憶できます。(20Kメモリ)

3. バーコードを検査する

3.1 バーコードのスキヤニング

バーコードをスキヤニングする場合、まずインスペクタ2000をスキヤンモードに設定します。下記に手順を示します。

1. インスペクタ2000の ON ボタンを押し、電源を立ち上げます。
ディスプレイに次のメッセージが表示されます。
2. SELECT ボタンと ENTER ボタンを同時に押し、メインメニュー画面を表示させます。



**Scan Calib Setup
Storage Inactive**

3. SELECT ボタンを押し、Scan の S の位置にカーソルを移動させ、ENTER ボタンを押します。表示は次の様になり、スキヤンモードとなります。



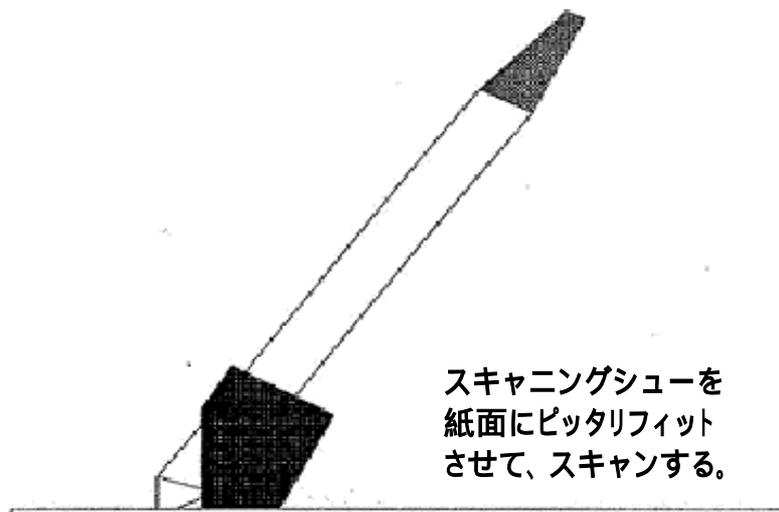
**Model I2000-06R
Ready

Inspector C.00**

この状態で、ペンスキャナでバーコードをスキヤンすることで、バーコードを検査することができます。

バーコードの検査をより正確に行うために、以下の事項に注意しながらスキヤンを行って下さい。

1. より厳密にバーコードを検査するために、各バーコードに対して、左から右へのスキヤン及び右から左へのスキヤンの双方向スキヤンを行い、両方の検査結果を得る。(次頁 図参照)
2. 目的のバーコードを水平な場所に置いて検査を行う。反射等のきつい場所は避ける。
3. インスペクタはバーコードのクワイエットゾーンの検査も行うため、バーコードのスキヤンはクワイエットゾーンの位置から開始する。
4. スキヤニングシューを鉛筆を持つようにしっかりと持ち、目的のバーコード(紙面)にピッタリと当ててスキヤンする。
(次頁 図参照)
5. 目的のバーコード上を一定の速度でスムーズにスキヤンする。
(スキヤン速度約127mm/sec ~ 254mm/sec)



1回目のスキャン方向



2回目のスキャン方向



スキャンが正しく行われると、インスペクタ2000は信号音を発し、LCD ディスプレイとバー幅偏差表示 LED にその結果を表示します。

3.2 合格 / 不合格

バーコードのスキャンを行うと、すぐにインスペクタ2000は合格 / 不合格を行います。例として、JAN コード49123494 (倍率100% 8桁短縮)をスキャンした場合の表示を示します。

合格表示

スキャンしたバーコードが合格の場合、1行目にデコードデータが表示され、2行目に検査を行ったバーコードシンボル規格を表示します。尚、インスペクタ2000のLCDディスプレイは1行に16桁までしかデータを表示できないため、デコードデータが16桁を超える場合、データがディスプレイに収まらないことがあります。ディスプレイの範囲外のデータはSELECTボタンを押して、ディスプレイをスクロール表示させることで確認することができます。

```
00 00049 12349 4
90-115%   EAN-8
```

不合格表示

スキャンしたバーコードが不合格の場合、1行目にデコードデータが表示され、2行目に検査を行ったバーコードシンボル規格とその不合格となった原因を表示します。

```
00 00049 12349 3
EAN-8 Bad Mod Ck
```

← モードチェックに誤りがある

尚、何れの場合もENTERボタンをおすことで、解析データ表示モードに移ります。
解析データ表示モードに関する詳細は3.3節を参照ください。



- ✓ スキャン回数を2以上に設定していて、まだ設定されたスキャン回数分のスキャンを行っていない場合、ディスプレイの2行目に残りスキャン数が表示されます。(表示例: {nn Scan Remain} < *nn = 1 ~ 9 >)
- ✓ Code93やCode128をスキャンした場合、データは全てプリンタブルキャラクタで表示されます。表示方法については、Appendix A、Bを参照下さい。

インスペクタ2000コードID : 合格表示	
コードID	コード名称
LOGMARS	Code 39 LOGMARS
AIAG B-1	Code 39 AIAG B-1
AIAG B3 / 4 / 5	Code 39 B-3 / 4 / 5
ANSI 3of9	Code 39 ANSI
HIBC 3of9	Code 39 HIBC
ANSI W / 43	Code 39 ANSI with Mod43
USS 3of9	Code 39 USS
ANSI 2of5	Interleaved 2of5 ANSI
UPC CASEC	Interleaved 2of5 UPC Casecode
USS CODABR	USS CODABAR
ANSI CODAB	ANSI Codabar Variant
USS C93	USS Code93
ANSI C93	ANSI Code93
USS C128	USS Code128
ANSI C128	ANSI Code128
X-Y%UPC-A	UPC Code, Version A
X-Y%UPCA+2	UPC Code, Version A with 2 digit Addendum
X-Y%UPCA+5	UPC Code, Version A with 5 digit Addendum
X-Y%UPC-E	UPC Code, Version E
X-Y%UPC+2	UPC Code, Version E with 2 digit Addendum
X-Y%UPC+5	UPC Code, Version E with 5 digit Addendum
X-Y%EAN-13	EAN 13 digit
X-Y%EAN13+2	EAN 13 digit with Addendum 2
X-Y%EAN13+5	EAN 13 digit with Addendum 5
X-Y%EAN-8	EAN 8 digit
X-Y%EAN8+2	EAN 8 digit with Addendum 2
X-Y%EAN8+5	EAN 8 digit with Addendum 5

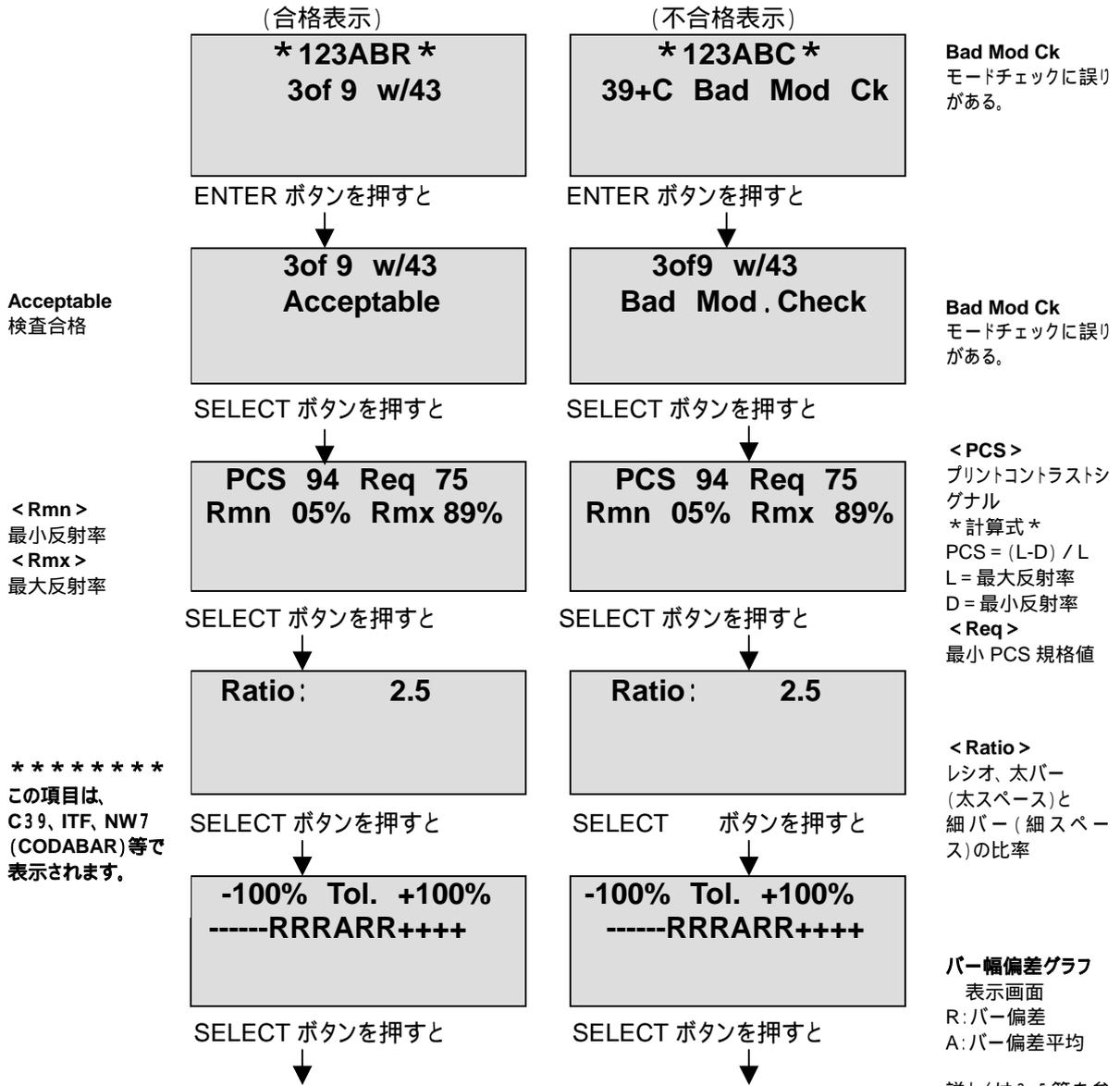


- ✓ 全てのANSIシンボルは、バー幅偏差によるトラディショナル規格です。
- ✓ UPC/EANコードのX及びYは倍率範囲を示します。

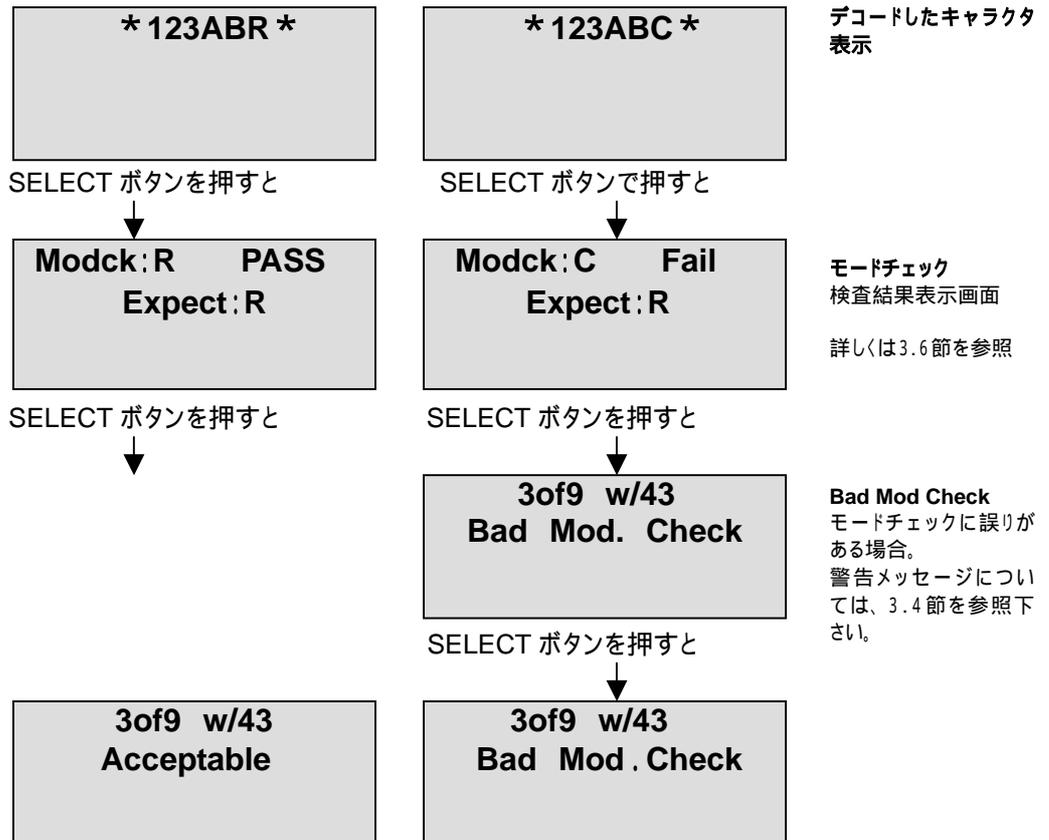
インスペクタ2000 コード ID : 不合格表示	
コードID	コード名称
LOG	Code 39 LOGMARS
B-1	Code 39 AIAG B-1
B345	Code 39 B-3 / 4 / 5
3OF9	Code 39 ANSI
HIBC	Code 39 HIBC
39+C	Code 39 ANSI with Mod 43
U39	Code 39 USS
25	Interleaved 2of5 ANSI
CC	Interleaved 2of5 UPC CASECODE
UCBR	USS CODABAR
CBRV	ANSI CODABAR Variant
U93	USS Code 93
C93	ANSI Code 93
U128	USS Code 128
C128	ANSI Code 128
UPCA	UPC Code, Version A
UA+2	UPC Code, Version A with 2 digit Addendum
UA+5	UPC Code, Version A with 5 digit Addendum
UPCE	UPC Code, Version E
UE+2	UPC Code, Version E with 2 digit Addendum
UE+5	UPC Code, Version E with 5 digit Addendum
EN13	EAN 13 digit
13+2	EAN 13 digit with Addendum 2
13+5	EAN 13 digit with Addendum 5
EAN8	EAN 8 digit
E8+2	EAN 8 digit with Addendum 2
E8+5	EAN 8 digit with Addendum 5

3.3 解析データ表示

合格 / 不合格が表示されている状態で ENTER ボタンを押すと、表示は解析データ表示モードにうつります。



次頁へ



最初の画面に戻る



- ✓ 解析データ表示中、SELECT ボタンと ENTER ボタンを同時におすことで、いつでもメインメニューに戻ることができます。
- ✓ 解析データ表示中、ENTER ボタンを押すことで、いつでも合格 / 不合格表示画面に戻ることができます。

3.4 警告メッセージ

下記にインスペクタ2000が表示する警告メッセージとその意味を説明します。

インスペクタ2000警告メッセージ		
警告メッセージ	検査項目	意味
Warning Ratio	レシオ	レシオが規格の許容範囲外である。
Invalid Format	インターキャラクタギャップ (ICG)	インターキャラクターギャップに誤りがある。
Invalid format	有効データキャラクタ	データキャラクタに誤りがある。
Bad Mod Check	モードチェックデジット	チェックデジットに誤りがある。
Warning PCS	PCS	規格で定められている PCS 値を下回っている。
Warning Wide	バー偏差バラツキ範囲	バー幅が太りすぎて、R が一部許容範囲にない。 例) -----+++RRARR (R)
Warning Narrow	バー偏差バラツキ範囲	バー幅が細りすぎて、R が一部許容範囲内にない。 例) (R)RRAR-----+++++++
Rejected Wide	バー偏差平均	バー偏差平均 (A) が太りすぎて、検査規格外である。 例) RRR-----+++++++ (A)
Rejected Narrow	バー偏差平均	バー偏差平均 (A) が細りすぎて、検査規格外である。 例) (A)RRR-----+++++++
Invalid Format	UPC/EAN Addendum パリティ	UPC/EAN の Addendum パリティに誤りがある。
Warning QZ/SS	クワイエットゾーン	スタート/ストップコードに誤りがあり、左右のクワイエットゾーン(マージン)が規格で定められている値を下回っている。
Please Scan Slower	オペレーション	スキャン速度が速すぎる。
Low Battery	バッテリー	電池の容量が残り少ない。
Replace Battery	バッテリー	電池の交換が必要。
Recalibrate	オペレーション	再キャリブレーションが必要。
Store & Print Not Available	オペレーション	記憶データが0%の状態、プリントを試みた。
Scan not Stored Buffer Full	オペレーション	記憶領域が満杯(99%)の状態でスキャンを行った。 記憶領域をクリアしないかぎり、スキャンを続行できません。
HIBC Format Error	セットアップ	Code39 HIBC が設定されているにもかかわらず、それ以外の Code39 がスキャンされた。

3.5 バー幅偏差グラフ

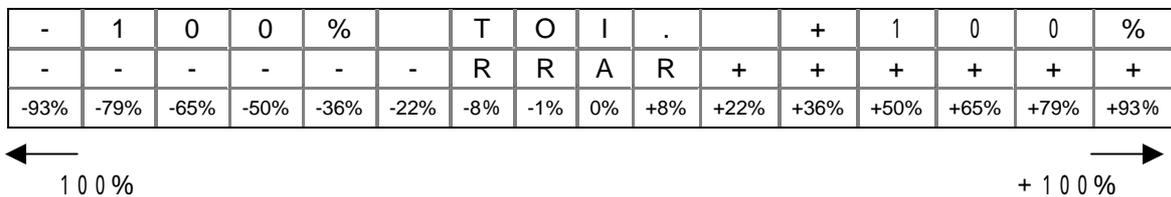
ここでは、インスペクタ2000の LCD ディスプレイに表示されるバー幅偏差グラフの見方について説明します。

(グラフ表示画面)

-	1	0	0	%		T	O	I	.		+	1	0	0	%
-	-	-	-	-	-	R	R	A	R	+	+	+	+	+	+

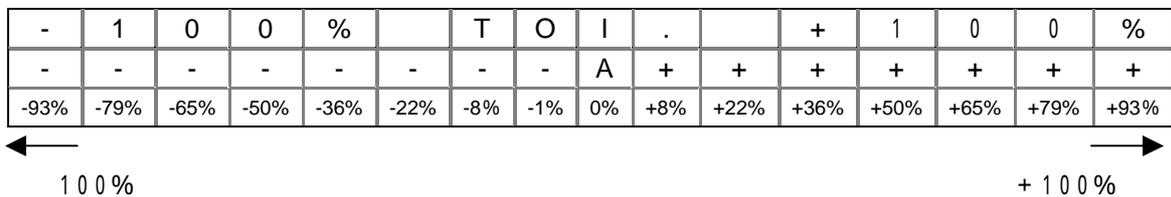
- ナロー基準幅： 全てのナローバー及びナロースペース幅を合計した値をナローバー / ナロースペースの本数で割った平均値。
- ワイド基準幅： 全てのワイドバー及びワイドスペース幅を合計した値をワイドバー/ワイドスペースの本数で割った平均値。
- A： 測定された各バーの実測値とナロー基準幅及びワイド基準幅との各誤差の平均を表します。
- R： 各バー幅とナロー基準幅及びワイド基準幅との偏差のパラツキを表しています。

バー幅偏差グラフは下記のスケールにて表示されています。



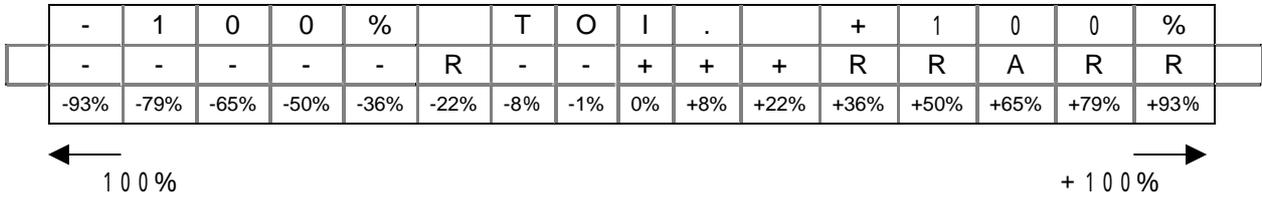
下記に幾つかのグラフ表示画面の評価例を示します。

例1



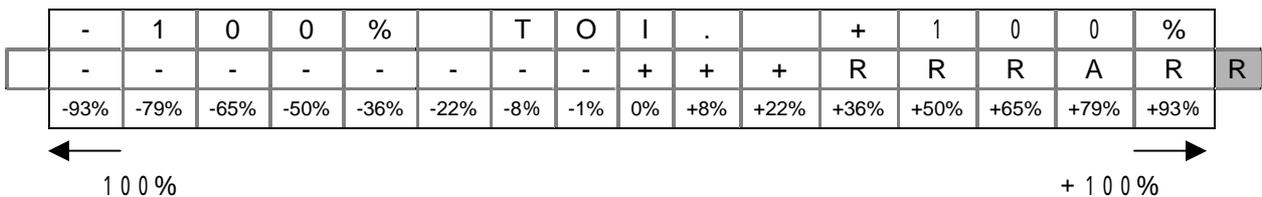
- 評価結果： Acceptable(合格)
 A が0%の位置にあり、R が全く表示されていないので、バー幅が基準寸法通り(誤差がない)である。
 均一のとれたパラツキの全くない検査レベルでは理想的なバー幅である。

例 2



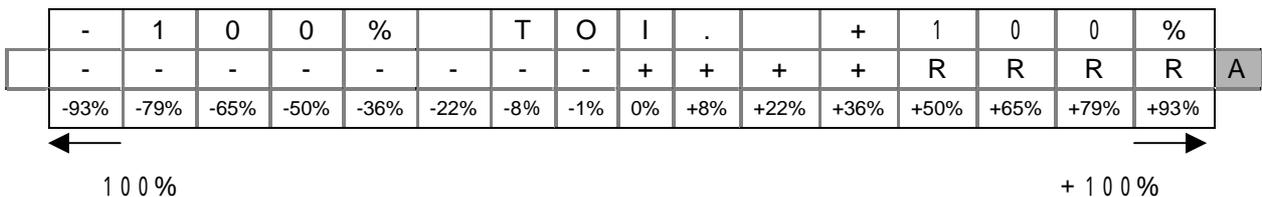
評価結果: Acceptable (合格)
 A が +65% の位置にあり、R が -22% と +36% ~ +93% 以上の範囲にバラツキしています。全体的には、かなり太り過ぎですが、一部細っている部分もあります。
 理想的とは言えませんが、検査レベルでは Acceptable (合格) である。

例 3



評価結果: Warning (注意)
 A が +79% の位置にあり、R が +36% ~ +100% 以上 (ディスプレイ外) の範囲に迄ばらついてます。全体的にかなり太り過ぎですが、A (平均偏差値) が許容範囲内に収まっているため、検査レベルでの Warning (注意) という警告にとどまっています。 (Warning Wide)

例 4



評価結果: Rejected (不合格)
 A が +100% 以上 (ディスプレイ外) の位置にあり、R が +50% ~ +93% 以上の範囲に迄ばらついてます。全体的にかなり太り過ぎで、A (平均偏差値) が許容範囲外に位置しているため、検査レベルの Rejected (不合格) となります。 (Rejected Wide)



✓ 例 3, 4 共に太りすぎの例を示していますが、マイナス側で Warning 及び Rejected が発生する場合があります。
 (Warning Narrow/Rejected Narrow)

3.6 モードチェック表示

チェックデジット付きのコード(UPC/EAN、Code39 Mod43、CASECODE 等)をスキャンすると、インスペクタ2000は実際にスキャンしたバーコードで表現されているチェックデジットキャラクタが正しいかを検査し、検査結果をディスプレイに表示します。

幾つかの表示例を示します。

例1

M	o	d	c	k	:	5				P	a	s	s
			E	x	p	e	c	t	:	5			

Modck: 5
 実際にスキャンしたバーコードに表記されているチェックデジットキャラクタ。

Expect: 5
 インスペクタ2000が計算により導き出したチェックデジットキャラクタ。

評価結果: PASS(チェックデジット合格)
 インスペクタ2000が導き出したチェックデジットキャラクタと実際に表現されているキャラクタが等しいため、PASS(チェックデジット合格)となる。

例2

M	o	d	c	k	:	0				F	a	i	l
			E	x	p	e	c	t	:	5			

Modck: 0
 実際にスキャンしたバーコードに表記されているチェックデジットキャラクタ。

Expect: 5
 インスペクタ2000が計算により導き出したチェックデジットキャラクタ。

評価結果: Fail(チェックデジット不合格)
 インスペクタ2000が導き出したチェックデジットキャラクタと実際に表現されているキャラクタが異なるため、Fail(チェックデジット不合格)となる。

例3

M	o	d	c	k	:	5		9		F	a	i	!
			E	x	p	e	c	t	:	7		9	

- Modck: 59
 実際にスキャンしたバーコードに表記されているチェックデジットキャラクタ。
- Expect: 79
 インスペクタ2000が計算により導き出したチェックデジットキャラクタ。
- 評価結果: Fail(チェックデジット不合格)
 インスペクタ2000が導き出したチェックデジットキャラクタと実際に表現されているキャラクタが異なるため、Fail(チェックデジット不合格)となる。
- 参考: このチェックデジット検査結果画面は UPC - A コードのシステムキャラクタが2の場合や EAN コードのプリフィックスが20の場合に表示されます。
 チェックデジットの1番目がランダムウェイトチェックで、2番目が Mod10チェックデジットです。

例4

M	o	d	c	k	:	0		4			C	H	K
			E	x	p	e	c	t	:	7		4	

- Modck: 04
 実際にスキャンしたバーコードに表記されているチェックデジットキャラクタ。
- Expect: 74
 インスペクタ2000が計算により導き出したチェックデジットキャラクタ。
- 評価結果: CHK
 インスペクタ2000が導き出したチェックデジットキャラクタと実際に表現されているキャラクタが異なりますが、表現されているキャラクタが0の場合、Fail ではなく、CHK というメッセージを表示します。
- 参考: このチェックデジット検査結果画面は UPC - A コードのシステムキャラクタが2の場合や EAN コードのプリフィックスが20の場合に表示されます。
 チェックデジットの1番目がランダムウェイトチェックで、2番目が Mod10チェックデジットです。

3.7 バー幅偏差表示 LED

インスペクタ2000の本体上には5つのバー幅偏差表示 LED があり、ユーザーはスキャン後、この LED を確認するだけで、簡単にバーコードの検査結果を確認することができます。

下記にバー幅偏差表示 LED の各点灯パターンの意味を説明します。

バー幅偏差表示 LED 点灯パターン					実測バー幅平均偏差 (%)	評価
赤	橙	緑	橙	赤		
					+/-21%以内	良
					+22% ~ +49%	やや太い
					+50% ~ +78%	太い
					+79% ~ +99%	太り過ぎ
					+100%以内 (Rejected Wide)	不合格
					-22% ~ -49%	やや細い
					-50% ~ -78%	細い
					+79% ~ -99%	細過ぎ
					-100%以上 (Rejected Narrow)	不合格

Appendix A プリントアウト

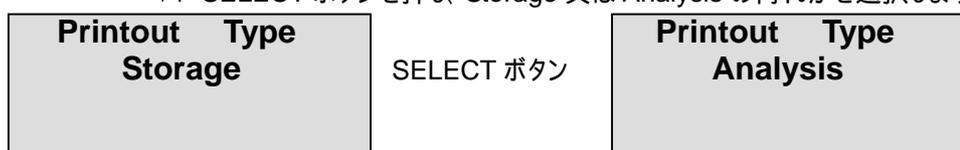
インスペクタ2000にプリンタ(オプション)を接続することで、バーコード検査結果を簡単にプリントアウトすることができます。

プリントアウト手順は非常に簡単で PRINT ボタンを押した後、SELECT ボタンを使用して、プリントモードの選択を行い、ENTER ボタンを押すだけです。

1. PRINT ボタンを押すと、画面がプリントモード選択画面になります。



1. SELECT ボタンを押し、Storage 又は Analysis の何れかを選択します。



< Storage >

記憶データを全てプリントします。

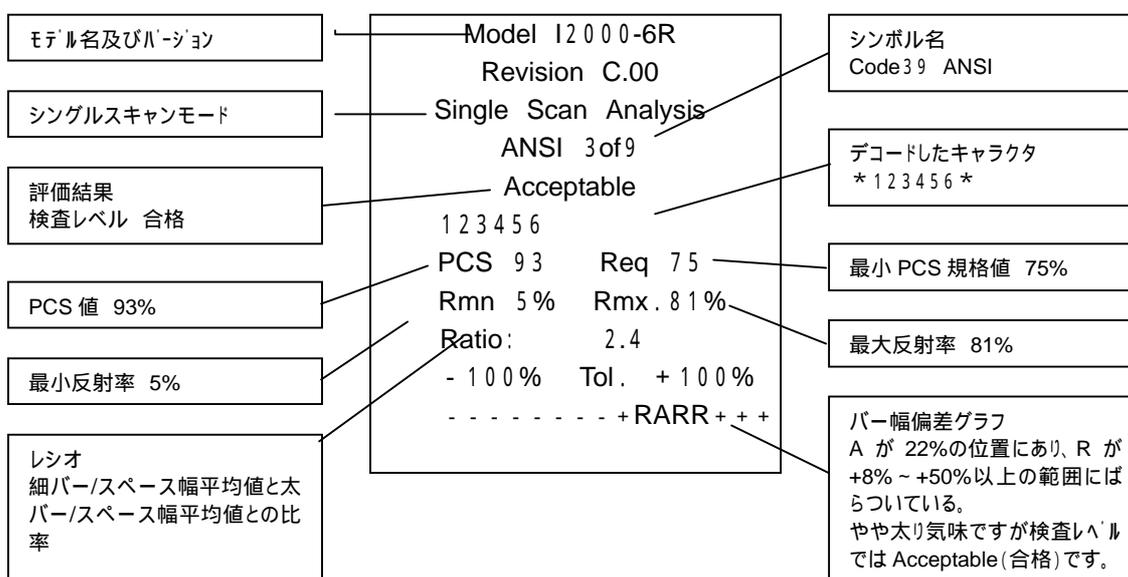
プリントアウトは最後にスキャンしたデータから順次行われます。

< Analysis >

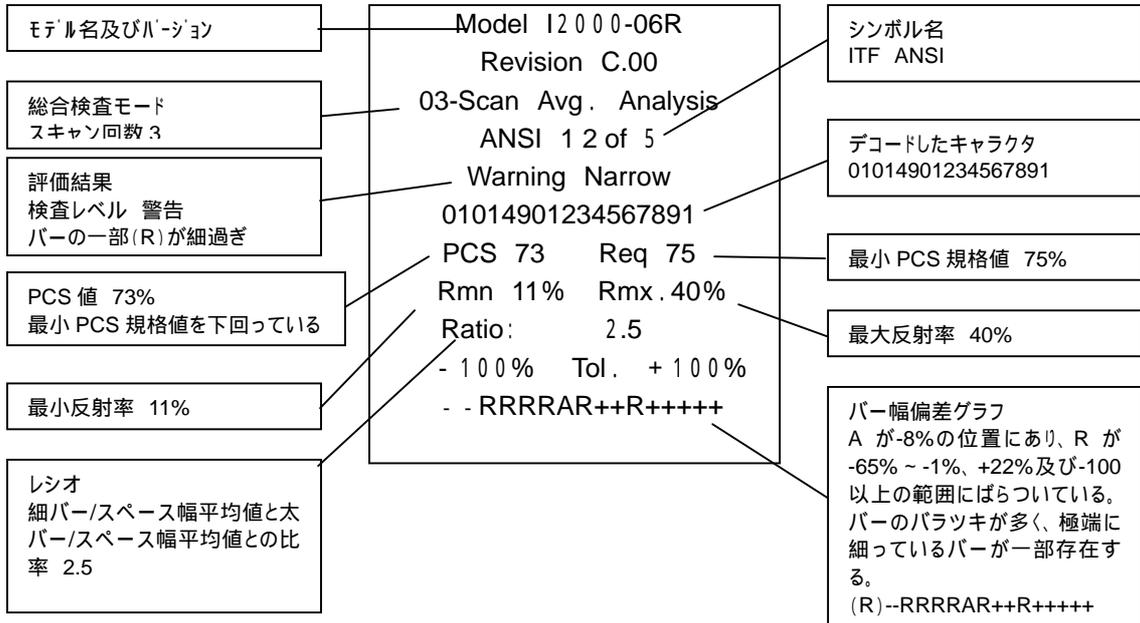
直前にスキャンしたデータをプリントアウトします。

3. ENTER ボタンを押すと、選択されたプリントモードで印刷を開始します。

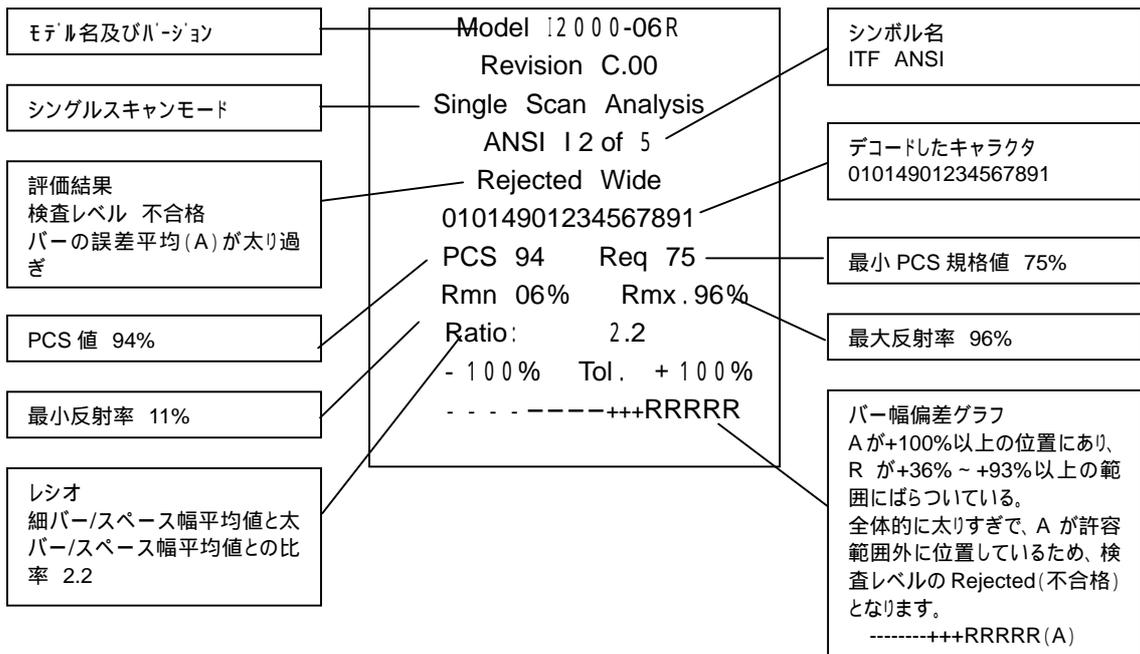
プリントアウトサンプル 1



プリントアウトサンプル 2



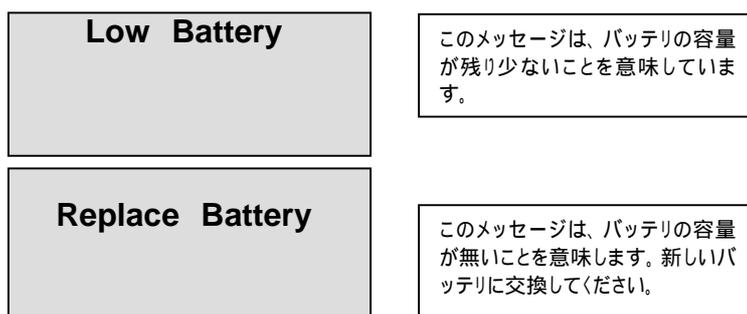
プリントアウトサンプル 3



Appendix B バッテリと電源オフ

B.1 バッテリに関するメッセージ

バッテリーに関するメッセージには以下の2種類があります。

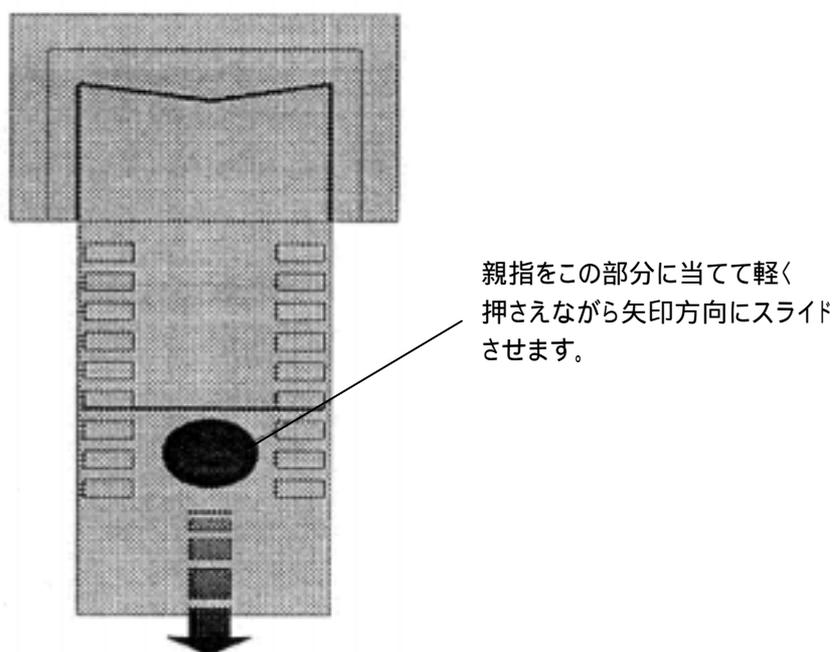


B.2 バッテリの交換

下記にバッテリーの交換手順を示します。

1. インスペクタ2000本体裏面にあるバッテリーカバーを軽く抑えながら、スライドさせて取り外します。
(図参照)
2. 古いバッテリー4本を取り除きます。
3. 新しいバッテリー(単三アルカリ電池)4本をバッテリーケースに書かれている極性に合わせて挿入します。
4. バッテリーカバーを元通りスライドさせて、カチッと音がするまで締めてください。
ON ボタンを押して、インスペクタ2000が正しく動作していれば OK です。

ON ボタンを押して、インスペクタ2000が正しく動作していれば OK です。



B.3 ニッカドバッテリー

オプションで用意されているニッカドバッテリーと充電器を購入することで、インスペクタ2000を充電式バッテリーで動作させることができます。

ニッカドバッテリーをご購入される場合は、お近くの販売店までお問い合わせ下さい。



- ✓ ニッカドバッテリーは充電中はインスペクタ2000を使用することはできません。必ず充電が完了してからスキャンを開始して下さい。
- ✓ アルカリ電池を挿入している状態で、ニッカドバッテリー用の充電器を使用すると、インスペクタ2000が故障する恐れがありますので、注意して下さい。

B.4 電源オフ

インスペクタ2000は電源オートオフ機能を採用しているため、電源を手動でオフにするためのスイッチは装備していません。

この機能は、一定時間(60秒間)の間、インスペクタ2000を使わない状態が続くと、自動的に電源を切るものです。但し、以下の状態では電源オートオフ機能が働きません。

1. ペンが白い物の上に置かれている。
ご使用にならない時は、本体横のマジックテープにペンをセットしてください。
2. インスペクタ2000がCALIBモードとなっている。
バッテリー消耗の原因となりますので、メインメニューに戻して下さい。

Appendix C コード128

コード128は3種類のサブセット(サブセット A、B、C)を使用して、ASC キャラクタ128文字(英数字、特殊キャラクタ、制御キャラクタ)全てを表現することができるバーコードシンボルです。

サブセット A: 数字、アルファベット(大文字のみ)、制御キャラクタ、特殊キャラクタを含むサブセットです。

サブセット B: アルファベット(大文字/小文字)、特殊キャラクタを含むサブセットです。

サブセット C: 00 ~ 99 及び特殊キャラクタを含むサブセットです。1文字のスペースで2桁の数字を表現できるため、高密度にバーコードを作成することができます。

コード128では特殊キャラクタや制御キャラクタ等(表示・印字できないキャラクタ)を表現することができます。その様なキャラクタを含むバーコードデータを LCD ディスプレイに表示する場合、インスペクタ2000では2行を使い表示・印字できないキャラクタを LCD ディスプレイに表示しています。以下に各サブセットのキャラクタ表示方法を示します。

データ	ディスプレイ1行目	ディスプレイ2行目														
サブセット A																
SF	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/	0
1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?	@	A
B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	-	NUL	SOH	STX	ETX
S	T	U	V	W	X	Y	Z	「	¥	」	^	_	L	H	X	X
EOT	ENQ	ACK	BEL	BS	HT	LF	VT	FF	CR	SO	SI	DLE	DC1	DC2	DC3	DC4
E	E	A	B	B	H	L	V	F	C	B	S	D	D	D	D	D
T	Q	K	L	B	T	F	T	F	R	O	I	E	1	2	3	4
NAK	SYN	ETB	CAN	EM	SUB	ESC	FS	GS	RS	US	FNC3	FNC2	SHIFT	CODE -C	CODE -B	FNC4
N	S	E	C	E	S	E	F	G	R	U	P	F	S	C	C	F
K	N	B	N	M	B	O	S	S	S	S	3	2	T	C	B	4
FNC1																
F																
1																

START (CODE A)	START (CODE B)	START (CODE C)	STOP
*	*	*	*
A	B	C	*

サブセット B																
SF	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/	0
	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/	0
1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?	@	A
1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?	@	A
B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
S	T	U	V	W	X	Y	Z	[/]	^	-	'	a	b	c
													N	S	S	E
S	T	U	V	W	X	Y	Z	[/]	^	-	'	a	b	c
d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
u	v	w	x	y	z	{		}	~	DEL	FNC3	FNC2	SHIFT	CODE -C	FNC4	CODE -A
										D	F	F	S	C	F	C
u	v	w	x	y	z	{		}	->	L	3	2	T	C	4	A
FNC1																
F																
1																

START (CODE A)	START (CODE B)	START (CODE C)	STOP
*	*	*	*
A	B	C	*

サブセット C																
00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6
17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3
7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3
34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5
4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0.
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67
5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7
68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84
6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8
8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9.	0	1	2	3	4
85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	CODE -B	CODE -C
8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	C	C
5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	C	C
FNC1																
F																
1																

START (CODE A)	START (CODE B)	START (CODE C)	STOP
*	*	*	*
A	B	C	*

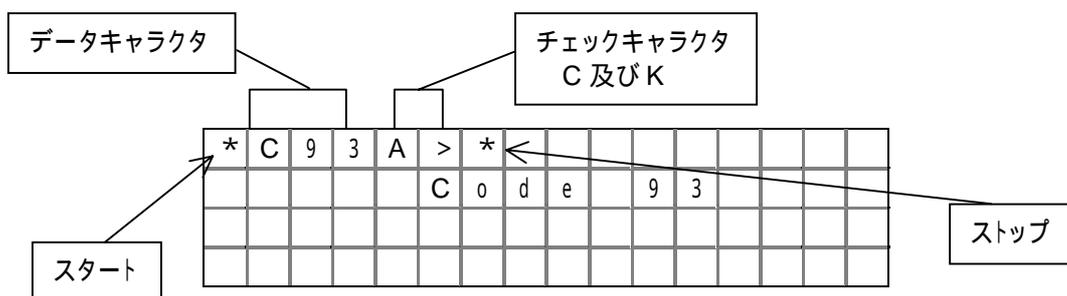
- * LCD ディスプレイ上では、\ は ¥ と表示されます。
- ** LCD ディスプレイ上では、~ は -> と表示されます。
但し、プリンタからは ~ と正しくプリントされます。
- *** コード128のデータの最初が“Start C FNC100”の場合は、インスペクタ2000はその
コードを自動的に USS Shipping Container Code (Case Code 128) と解析します。

Appendix D コード93

コード93は0～9、A-Z及び6つのシンボルキャラクタと4つのコントロールキャラクタの計43のデータクタを使用して、ASCII キャラクタ128文字(英数字、特殊キャラクタ、制御キャラクタ)全てを表現することができるバーコードシンボルです。

128種類の ASCII キャラクタを1キャラクタ又はコントローラキャラクタと英字キャラクタの2キャラクタで表現しています。

また、シンボルには USS Code 93規格でC及びKと記載されている2つのチェックキャラクタが含まれています。下記にインスペクタ2000の合格/不合格表示画面例を示します。



コード93のコードデータ中には4種類のコントロールキャラクタ(表示・印字できないキャラクタ)が含まれている場合があります。その様なキャラクタを含むバーコードデータをLCDディスプレイに表示する場合、インスペクタ2000では4種類のコントロールキャラクタ及びスタート/ストップキャラクタを以下の様に置き換えて表示します。

キャラクタ対応表	
データキャラクタ	ディスプレイ
スタート/ストップキャラクタ	*
コントロールキャラクタ \$	<
コントロールキャラクタ %	>
コントロールキャラクタ /	;
コントロールキャラクタ +	@

コード93のキャラクタセットについては次頁の表を参照下さい。

コード93キャラクタセット							
ASCII	Code 93	ASCII	Code 93	ASCII	Code 93	ASCII	Code 93
NUL	%U	SP	SPACE	@	%V	`	%
SOH	\$A	!	/A	A	A	a	+A
STX	\$B	"	/B	B	B	b	+B
ETX	\$C	#	/C	C	C	c	+C
ETO	\$D	\$	/D	D	D	d	+D
ENQ	\$E	%	/E	E	E	e	+E
ACK	\$F	&	/F	F	F	f	+F
BEL	\$G	'	/G	G	G	g	+G
BS	\$H	(/H	H	H	h	+H
HT	\$I)	/I	I	I	i	+I
LF	\$J	*	/J	J	J	j	+J
VT	\$K	+	+	K	K	k	+K
FF	\$L	,	/L	L	L	l	+L
CR	\$M	_	_	M	M	m	+M
SO	\$N	.	.	N	N	n	+N
SI	\$O	/	/	O	O	o	+O
DLE	\$P	0	0	P	P	p	+P
DC1	\$Q	1	1	Q	Q	q	+Q
DC2	\$R	2	2	R	R	r	+R
DC3	\$S	3	3	S	S	s	+S
DC4	\$T	4	4	T	T	t	+T
NAK	\$U	5	5	U	U	u	+U
SYN	\$V	6	6	V	V	v	+V
ETB	\$W	7	7	W	W	w	+W
CAN	\$X	8	8	X	X	x	+X
EM	\$Y	9	9	Y	Y	y	+Y
SUB	\$Z	:	/Z	Z	Z	z	+Z
ESC	\$A	;	%F	[%K	{	%P
FS	%B	<	%G	\	%L		%Q
GS	%C	=	%H]	%M	}	%R
RS	%D	>	%I	^	%N	~	%S
US	%E	?	%J	-	%O	DEL	%T

Appendix E UPC / EAN 倍率とバー幅偏差

UPC / EAN / JAN シンボルは桁数とフォーマットが固定されているため、サイズを変更する唯一の手段はその倍率を変更することに限られ、規格ではバー / スペースの許容誤差を80% ~ 200%の倍率毎に定めています。

インスペクタ2000はコードの倍率範囲を導き出すためのバー / スペース測定を行いません。ですから、シンボルが許容誤差範囲内にあるかを正確に検査するために、予め測定対象となるコードの倍率範囲設定を行わなければいけません。

例えば、測定対象となるコードの倍率範囲を90 ~ 115%に設定した状態で、倍率200%の UPC / EAN / JAN シンボルをスキャンすると、許容誤差範囲内で印刷されているのにもかかわらず、検査が不合格 (Warning) となる可能性が高くなります。これは実際に検査したコードの倍率 (200%) に対して、より厳しい許容誤差範囲を持つ小さい倍率範囲 (90 ~ 115%) が設定されているからです。

また、逆に測定対象となるコードの倍率範囲を151% ~ 200%に設定した状態で、倍率100%の UPC / EAN / JAN シンボルをスキャンすると、許容誤差範囲外で印刷されているにもかかわらず、検査が合格 (Acceptable) となる可能性が高くなります。これは実際に検査したコードの倍率 (100%) に対して、より幅広い許容誤差範囲を持つ大きな倍率範囲 (151 ~ 200%) が設定されているからです。



- ✓ UPC / EAN / JAN シンボルを検査する場合は、倍率範囲設定が非常に重要な意味を持つことになります。

Appendix F クワイエットゾーンの検査

インスペクタ2000はUPC/EANシンボルを解析する際、スキャンデータの両端(クワイエットゾーン)についての検査を行います。スキャンされたコードのスキャンデータの両端に何か低い反射率データが含まれていれば、メッセージ“Warning QZ/SS”を表示します。

これは、十分なクワイエットゾーンが無い場合やスタート/ストップコードに余分なエレメントが含まれていることを意味しています。

クワイエットゾーンの最小値については、下記の表を参照ください。

クワイエットゾーン最小値(アドオン無し)		
シンボル	スタートコード側 QZ	ストップコード側 QZ
UPC-A	9X Min .	9X Min .
UPC-E	9X Min .	7X Min .
EAN-13	11X Min .	7X Min .
EAN-8	7X Min .	7X Min .

クワイエットゾーン最小値(アドオン有り)			
シンボル	スタートコード側 QZ	ストップコード側 QZ	ギャップ
UPC-A	9X Min .	9X Min .	9-12X
UPC-E	9X Min .	7X Min .	9-12X
EAN-13	11X Min .	7X Min .	7-10X
EAN-8	7X Min .	7X Min .	7-10X

* Xは規格で定められたナローエレメント幅の理想値



- ✓ コードのスキャンはスタートコード側からとストップコード側からの両方向を行って下さい。

Appendix G 検査項目

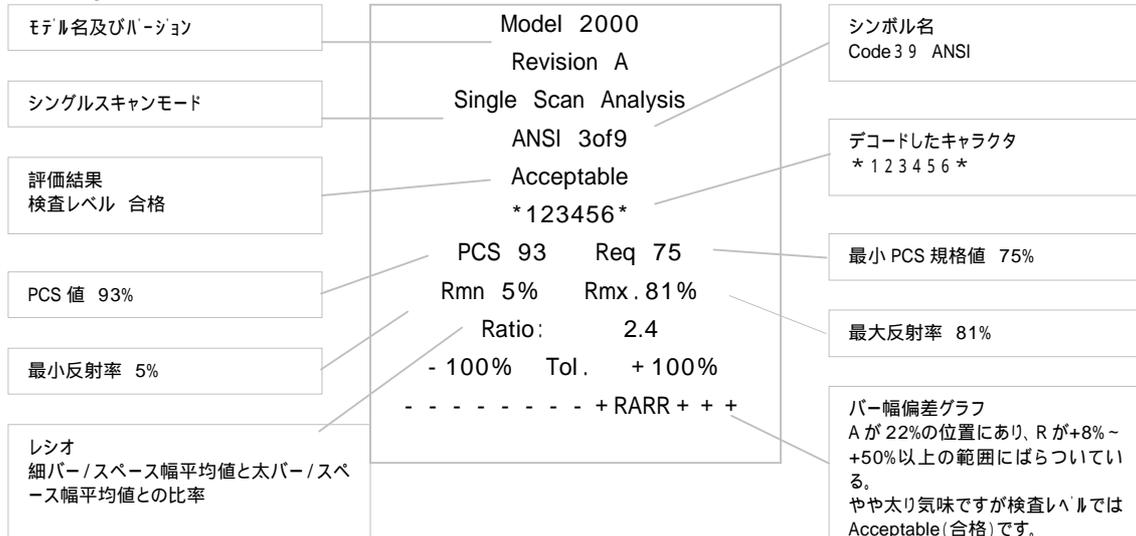
下記にインスペクタ2000が検査する各シンボルのパラメータを示します。

検査パラメータ					
シンボル (Symbology)	レシオ (Ratio)	ICG	データキャラクタ (Data Char.)	モードチェック (Mod Check)	許容範囲 (Tolerance)
USS Code39	2.0-3.0	.5X-8X	C39 標準キャラクタ	N/A	((12R-8)81)X/
AIAG B-1	2.2-3.2	.5X-8X	C39 標準キャラクタ	N/A	((12R-8)81)X/
AIAG B-3/4/5	2.8-3.2	.5X-8X	\$/+%は使用不可	N/A	((12R-8)81)X/
LOGMARS	2.2-3.0	.5X-8X	C39 標準キャラクタ	N/A	((12R-8)81)X/
ANSI C39	2.2-3.0	.5X-8X	C39 標準キャラクタ	N/A	((12R-8)81)X/
C39w/MOD4 3	2.2-3.0	.5X-8X	C39 標準キャラクタ 最少4キャラクタ	MOD 43	((12R-8)81)X/
HIBC	2.2-3.0	.5X-8X	C39 標準キャラクタ 最少2キャラクタ 1st. = “+”	MOD 43	((12R-8)81)X/
USS I25	2.0-3.0	N/A	N/A	N/A	(18R-1)/80)X
ANSI I25	2.2-3.0	N/A	N/A	N/A	(18R-1)/80)X
CASE CODE	2.3-2.9	N/A	最少3キャラクタ	MOD 10	(18R-1)/80)X
USS 128	N/A	N/A	N/A	MOD 103	.40X
C128	N/A	N/A	N/A	MOD 103	.35X
CASECODE 128	N/A	N/A	14キャラクタ フォーマットチェック	MOD 10 MOD 102	.35X
UPC/EAN	N/A	N/A	N/A	MOD 10 (&ランダムウェイト)	80-89% = .14X 90-115% = .30X 116-150% = .34X 151-200% = .38x
USS ODABAR	2.0-3.0	.5X-8X	コーダバー 標準キャラクタ	N/A	((5R-8)/20)X
VARIANT	2.2-3.0	.5X-8X	コーダバー 標準キャラクタ	N/A	((5R-8)/20)X
C93	N/A	N/A	C93 標準キャラクタ	C & K	.35X
USS C93	N/A	N/A	C93 標準キャラクタ	C & K	.45X

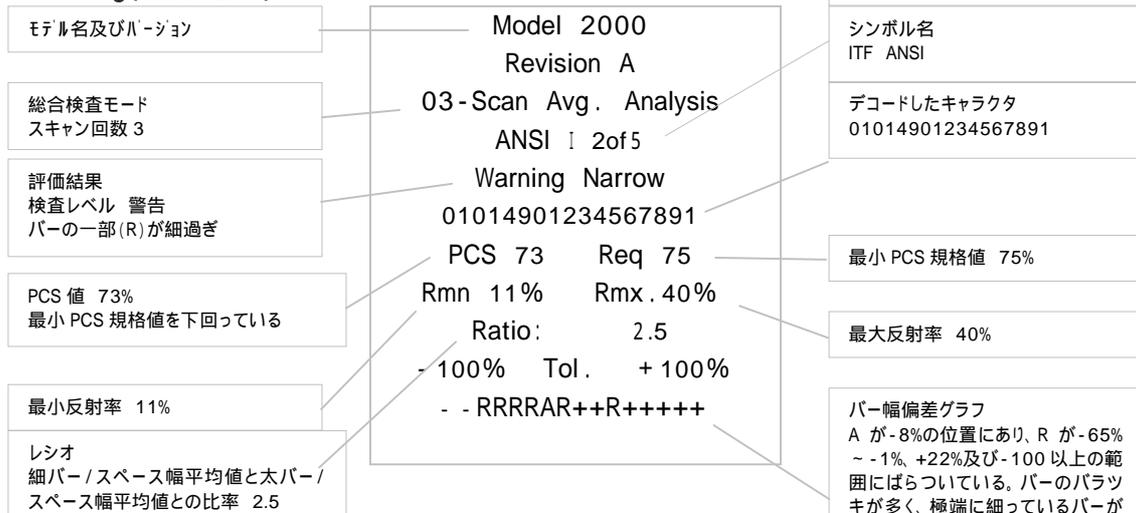
* Xは規格で定められたナローエレメント幅の理想値
Rは算出されたレシオ

Appendix H インспекター2000 検査データ内容説明

Acceptable(合格) CODE 3of9



Warning(注意・警告)ANSI I 2of5



Rject(不合格) ANSI I 2of5

